

保護者と創造する学校の未来づくりセミナー 開催要項



1 趣 旨

教職大学院を中心とした大学と教育委員会が連携し、指標をふまえた教職生活全体を通じた教員の能力形成が求められる中、教職大学院や教育委員会関係者、現職教員や教員志望学生が、保護者や地域教育関係者とともに「カフェ形式」で語りあうことをとおして、学校と家庭、地域社会の連携・協働のあり方や今後の学校づくりを考え、教員としての資質能力の向上と教育実践の充実深化を図る。

2 主 催

山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）  
独立行政法人教職員支援機構、同 山口大学センター

3 共 催

山口県教育委員会・山口市教育委員会

4 開催日時

令和5年12月23日（土） 10:00～17:00

5 開催場所

公立学校共済組合山口宿泊所「セントコア山口」（2階 サファイアホール）  
〒753-0056 山口市湯田温泉 3-2-7 Tel:083-922-0811

6 参加者

現職教員、教員志望学生、教育委員会関係者、保護者、地域教育関係者や大学教職員 等

7 研修内容等

(1) 開会行事 (10:00～10:10)

挨拶 山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻 専攻長 佐々木 司  
事業紹介、諸連絡

(2) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク） (10:15～11:45)

テーマ 「子どもの成長、自立と保護者の願い、教職員の想い」  
指導助言者 山口県PTA連合会役員

(3) 研究協議（シェアリング） (11:55～12:20)

テーマ 「カフェをとおした自身の変容と来年のチャレンジ」

(4) 講演（オンライン） (13:30～15:30 13:20 研修準備)

演題 「社会の変化とこれから学校教育 ～ 主体性と当事者意識～」  
講師 横浜創英中・高等学校 校長 工藤 勇一 さん

(5) カフェ（班別ちゃぶ台ワーク） (15:40～16:40)

テーマ 「学校の今と未来を見つめよう ～工藤先生のお話と私の学校の話～」

(6) 閉会行事 (16:40～17:00)

講評 山口県教育庁教職員課 管理主事 丸山 茂生  
挨拶 教職員支援機構山口大学センター センター長 和泉 研二

8 その他

(1) 本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構「令和5年度 NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業」受託経費により運営される。

(2) 今後の「新型コロナ」ウィルス感染動向や開催地の状況等に応じて、開催形態の変更（オンライン研修等）、延期や中止の場合がある。



# 11月の「ちやぶ台」は、山口や大学を飛び出して 巡回型公開講座@周南市! 「つなぐ」「距離感」「本物」「感性」「可能性」...学びと感動にあふれる一日!

「午前の部・午後の部と、全く異なる業種の方々からお話を聞く機会として参加した今回の「ちやぶ台研修会」であったが、(県教委の)中野教育調整監の最後のお話を伺い、この一日を「つなげて」考えるという作業を行ってみた。

動物園では、人間と動物が共存するために、動物の特性をいかした工夫が随所に設けられていた。周南市では、地域の教育力を信頼して、大胆な施策を進めておられた。新田さんからは、発想の転換や工夫をすることで、誰もがよりよく生きることができるとたくさん教えていただいた。

それぞれのお話に共通するのは、「ウェルビーイングを本気で実現しようとする人々の熱い思いとそこから生まれる知恵」であったと自分なりに整理することができた。研修に対する新たな視点を与えていただき、本当に実り多い幸せな秋の一日であった。」

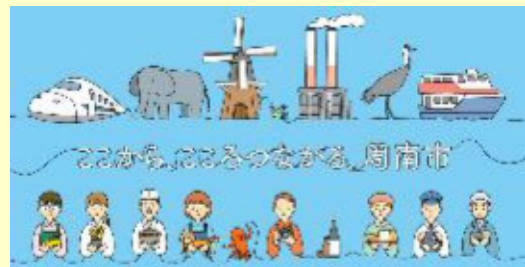
長門市立深川小学校の谷村直美先生が「まとめコメント」を送ってくれました。見事に一日をまとめてくれてありがとうございます。これで報告も済みそうですね(^^) 助かります(^^)

周南市がすっきりと晴れ渡った11月3日の「文化の日」。

午前の「第5回@徳山動物園(フィールドワーク)」には49人(教員18人、学生16人、講師(飼育員含む)4人、県・市教委とスタッフ11人)が、

午後の「第6回@徳山駅前図書館(実践研究と講演)」には60人(教員23人、学生14人、講師2人、県・市教委とスタッフ(託児関係含む)21人)が、集まってきました。

今回は、大学(教職大学院・教育学部)の地域貢献事業としても位置づけていて、周南市での「巡回型公開講座」としての開催でした。地元、周南市の先生や周南市教委の先生方もご参加下さって。本当にありがとうございました。掲載仕切れませんが、ざっくりと「学びの様子」を報告します。



## フィールドワーク「動物たちの生態と人との距離」

指導者 周南市徳山動物園 園長補佐(獣医師) 木原一郎さん+飼育員の皆さん

旧徳山市の市制25周年を記念して昭和35年3月に開園した徳山動物園。ゲージ型動物舎の隣接配置、旧毛利邸らしく庭園や史跡もたっぶりの美しい動物園です。プラス、今現在「リメイク」中! 獣医師である木原先生や笑顔が素敵な飼育員さんたちと巡りながら、バックヤードに入ったり、各動物について担当飼育員さんから直接お話をうかがったりと、まさに「スペシャル動物園ツアー」。視覚・聴覚・臭覚を研ぎ澄ませた2時間半でした。徳山動物園の皆さん、ありがとうございました。



参加者の「振り返り」ですが、今回も3枚(A4)に渡る「大作」、自身の歩みを重ねた「力作」等がいっぱい(^^) 読みごたえのあるメールばかりでした。ありがとうございました。紙面の都合でほんの一部しか掲載できなくて済みません。残念ですが、お許し下さい。

### 受講者のコメントから

動物の生態や飼育環境だけでなく、バックヤードや動物への想い等についても聞かせていただき、大変勉強になりました。私が特に考えたのは、以下の2点です。

まず、動物園等の職員と教員との交流についてです。動物園等の職員も公務員であることは知っていますが、今回のような機会がなければ、同じ公務員同士でも、教員と飼育員、学芸員との交流は実現しないのではないかと思います。「動物園で働くこと」には、キャリア・動物愛護・協働等、多くの教育的な視点があるように見え、動物園の職員の視点で、次世代の子どもたち





に伝えたいことは何なのかを聞いてみたくもなりました。ふみ込んだ交流が進めば、協働や効果的な教育実践がより可能になるかもしれないと思いました。

次に、動物に対する考え方です。木原園長補佐のお話から、動物園の歴史や、他国との動物に対する考え方（宗教観）の違いを学びました。中でも、他国と日本の考え方の違いに興味を持ちました。動物が老化して動けなくなった時にどのような対応をするか等の死生観や、動物たちの過ごす場所をどのような状態にするか等の動物に対する想いは、各国の価値観や考え方によって異なるようです。誰もどれが正しいとは言えませんが、いろいろな価値観や考え方があることを学ぶには、可視化でき、比較もできるため、とても良い教材であると思いました。



以上の通り、私はフィールドワークを通して、協働の新たな可能性や、価値観の視覚化の例を学ぶことができました。今後も、子どもの動物園での学びについて考えるとともに、校外学習で動物園等に行った際に、子どもたちにどんな話ができるのかについて、考えを深めていきたいと思えます。（ストマス院生）

「隣の芝生は青く見える」という。日々大量の事務作業等に追われる学校現場で仕事をしていると、他の業種は知らないからこそ「好き」を仕事にすることができているようで羨ましく思うことがある。今回、動物園のフィールドワークという貴重な機会をいただき、研修半分、日頃のストレスを動物に癒してもらいたい、という欲望半分で参加させていただいた。「動物が好き」という気持ちで日々仕事をされているだろう飼育員の方々に、正直羨望の気持ちもあった。しかし、木原さんをはじめ、園の職員の方々の話を伺っていると、日々限られた予算や資源の中で、少しでも動物にとってよりよい環境を作ることに心を砕いておられること、市の職員＝公務員として、社会の要請や市民の声に答えることを使命と捉えておられることが伝わってきた。「好きだけでは仕事ではない。やるべきことをやって、初めて仕事」という木原さんのお話がとても心に残った。（小学校）



近年教職員を取り巻く環境が「ブラック」だと言われているが、人不足、資金不足はどここの地方行政も抱えている問題である。周南市という地方の動物園として、予算や働き方改革、社会の「目」の変化など、様々な課題を抱えながらも、職員の強みを生かし、工夫して一つひとつを乗り越えておられることを伺い、業種は違っても、我々教職員と

使命感や抱えている悩みには共通点がたくさんあるということがわかった。プロフェッショナルとして、「命を守る」というプライドと、お客さんを喜ばせる「ユーモア」を心にもって仕事をされている姿を拝見するうちに、単純な羨望から、同じ今を生きている「同志」のような気持ちに心境が変わっていった。

教育とは業種の異なる「動物園」という場での学び、フィールドワークを通して、改めて教育という自分のフィールドを見つめ直すことができ、「仕事」への誇りややりがいについても考え直すことができた。（小学校）



私が動物園が好きな理由は、もちろん動物が好きなのですが、それ以外にもあります。まず、飼育展示の工夫が詰まっているところ。動物が過ごしやすいようにということはもちろんのこと、お客さんにどういう風に見せるのかということも職員の皆さんが工夫をしています。ちょっとした手書きの説明であったり、手作りの看板、導線をさり気なく示したナッジだったり、餌やりや掃除してる合間のお客さんとの会話であったりの中に学びがたくさんあり、そういうところが遊園地等にはない工夫だなという風に思っています。

次に、動物園にはたくさんの問いが溢れています。ハツカネズミとモルモットはどう違うのかなあとか、どうしてこの動物はこんな姿をしているのだろうか、どうしてマンドリルはあんな色なんだろうか、どうしてアカアシドウクラングルはあんなに美しいのか等々、たくさんの問いがあります。不思議がいっぱいです。

また来ているお客さん、特に親子の会話の中にたくさん授業のヒントがある気がしています。子どもがどうしてぞうさんの鼻はあんなに長いと尋ねた時にお母さんがどうしてなんだろうねって返すあの感じが子どもの好奇心を触発したり考え始めるキューになっていると思います。中にはつまらないお客さんもいて「全然動物見えない。どこにおるのかな。つまらんな」と言い放つ親もいます(^\_^)でもそこで「動物の習性で隠れてるんだね。隠れてる、隠れてる。どこにいるか探してみよう。」って言うと子どもがまたじっくり考えたり観察したりするんじゃないかなと思ったりします。そういうところがある動物園に惹かれます。徳山動物園は、街の中にあり駅近で平らで行きやすい動物園の一つで、小さいけれどもたくさん動物がいます。山の上にあたり坂道たくさんの動物園ももちろん魅力的ですが、大人も子どもも楽しめる学びやすいとても良い動物園だと思います。（高校）

## 事例研究 「周南市の教育について」

指導者 周南市教育委員会 教育部次長・教育政策課長 十楽さゆりさん

教育部次長さん 兼 教育政策課長さんとして、周南市教育行政をリードなさっている十楽さん。周南市教委の所管事業・施策は 93 事業にも及びますが、今回は「周南市教育大綱」、教育委員会組織、「学校施設等長寿命化計画」、SSW の単市配置事業「学校・家庭支援専門家配置事業」や学校部活動の地域移行を中心にご講義いただきました。後半には、石井岳文・小林弘典指導主事にも参加して貰って「ミニ・シンポジウム」参加者にとっては、居住する自治体以外の教育政策・施策を学べた貴重な 90 分だったようです。周南市教委の皆さん、ありがとうございました。



### 受講者のコメントから

「知恵を出し合い、一体となって同じ目標をもって取り組む」というお話が印象的でした。社会人になって、立場や経験を越えて、考えやアイデアを思う存分出し合うことは、なかなか難しいものであると感じていましたが、十楽課長のお話を伺うと、そんな職場ばかりではないのかもしれないと思いました。乗り越えなければならない現実的な問題の深刻さを全体で共有し、乗り越えるために何をすべきかを考えることで、「自分のアイデアが少しでも課題解決の役に立てたら」、という発想になるのかもしれませんが。組織で課題解決を行うには、問題や課題の明確な言語化や目標共有の意識化がとても大切であると感じました。(ストマス院生)

課題解決を行うにあたり、「多職種連携を行い、それぞれの立場の違いをもちよって知恵を出し合うこと」が重要と十楽さんがおっしゃっていたことが印象的であった。

様々な立場の人で集まると、いろいろな視点から案が出ることが予想されるが、そのためには他者の立場と意見を尊重することが非常に重要だと考えた。単に様々な立場の人を集めて、話し合いをすればよいのではなく、まずは立場や考え方が違う人を相互理解することが、多職種連携を行う前提で必要なことだと感じた。そしてその上で、お互いの得意分野を生かした相互補完的な連携は、課題を解決する上での大きな力となるのではないかと考えた。(総合支援学校)



周南市は県内に先駆けて駅前に図書館兼カフェを新設しました。図書館兼カフェが新設される前に比べ、駅前の滞在時間増や交流人口増につながり、にぎわいが戻ってきたと感じました。そのような先見性と独自性がある周南市の「推し」の場所でお話が聞けたことは自分の感性を磨くとともに、価値観のアップデートにつながるような貴重な場でした。

インターネットで「2050 人口減少」「2050 少子化」というキーワードで検索をすると、今以上に「少子化」「高齢化」「生産年齢人口減」が進むという記事や資料が多く出てきます。そのような時代を想定し、「2050 年を乗り越えられる周南市にする」というコンセプトのもと、教育大綱の策定や学校施設等長寿命化計画の実施、市独自のソーシャルワーカーの配置や学校部活動の地域移行を進めている周南市は教育面においても、県内の他市より先見の明と独自性があると思いました。



「周南のスポーツ文化」など、これまで築いてきた魅力を生かしながら周南にしかできないことを考え、未来に向けた取組を行っている話を聞き、自身の自治体や学校でも地域や学校の良さを生かしながら他にないものを生み出し、魅力をつくっていきたいです。(高校)

地方行政の一つである「教育」、これだけに財源を充てることはできないが、周南市に限らずこの市町も全体に占める教育予算は高いことは意外に知られていないのではないだろうか。また教育に限らず、行政が一つの施策を実施するまでには、政治的な折衝等、おそらく公の場では語りたくない様々な苦労がある。学校現場にいと、このことに疎かになってしまいがちである。時に事情も知ることなく、好き勝手言うってしまうこともある。3名の方が、市の施策についての説明から、「子どものため」という使命感をもっておられることを強く感じた。教員出身者であるか否かに関係なく、これぞ公務員のあるべき姿であると考えた。(中学校)

地方行政の一つである「教育」、これだけに財源を充てることはできないが、周南市に限らずこの市町も全体に占める教育予算は高いことは意外に知られていないのではないだろうか。また教育に限らず、行政が一つの施策を実施するまでには、政治的な折衝等、おそらく公の場では語りたくない様々な苦労がある。学校現場にいと、このことに疎かになってしまいがちである。時に事情も知ることなく、好き勝手言うってしまうこともある。3名の方が、市の施策についての説明から、「子どものため」という使命感をもっておられることを強く感じた。教員出身者であるか否かに関係なく、これぞ公務員のあるべき姿であると考えた。(中学校)

3名の方が、市の施策についての説明から、「子どものため」という使命感をもっておられることを強く感じた。教員出身者であるか否かに関係なく、これぞ公務員のあるべき姿であると考えた。(中学校)





## 記念講演 「アスリートとして生きること ～不可能とは可能性のこと～」 講師 日立ソリューションズ「チーム AURORA」スキー部 新田佳浩さん

さあ「パラスキーのレジェンド」の登場です。平昌パラリンピック（CC ミドルクラシカル）金メダリスト、2022-23年シーズン「ワールドカップ（年間総合）」3位、1年のほとんどが世界各地での大会（試合）や合宿生活！という「日の丸を背負ってご活躍」の新田さん。

凄かったですね、感動でしたね、「笑い」あり「ウルツと」あり...「金・銀メダル（実物）」も全員に持たせて下さって。一瞬で新田さんの「大ファン、サポーター」になった2時間でした。

みんなで行きますか！「トリノ」で応援！ *Buona fortuna, Nitta!*

### 受講者のコメントから

「THE 本物」でした。今日一日のつながりを考えると...最後に話がありましたが、私は、今日一日、本物にしかない魅力を感じました。最初の動画も、新田さんが前にいて、一緒に見たことで感動が増しました。世界に引き込まれました。話が聞きたいと思いました。本物の魅力と、提供の仕方について学びました。授業も ICT も便利ですが、できる限り本物は、準備したり、提供したりしてふれさせたいと思いました。

私は、自分では真面目という普通、一般的で面白くないな、と思っているので、引き出しが少ないのがコンプレックスです。だからこそ、人と話すこと、関わるのが好きです。人それぞれの感性や見方について興味があります。同じ物を見たり、体験したりしても、そんな見方・考え方があったなんて...という感動があります。一方的に



学ぶ研修会よりも、アウトプットしあえる研修会が好きです。今回も、Impossibleも I'm possible に変換できるってすごい感性に触れられて、ワクワクしました。

本気で自己と向き合った人の言葉は重かったです。不安やマイナス面と向き合うために書き出すという方法は、ぜひやってみようと思います。改善・対策の方法も浮かび、クリアした達成感も視覚化できて良さそうだなと思いました。（小学校）



世界を相手に活躍されているアスリートの方からお話を伺う貴重な機会。大変楽しみに講演を聞かせていただいたが、あつという間に会場の誰もが新田さんのファンになったことだろう。常人には果たせないような偉業を成し遂げておられるエネルギーはもちろん感じるのだが、それでいて身近にいる同世代の方と同じように気軽に声をかけたくなるような普通の感覚も兼ね備えておられるところに誰もが引き込まれたのではないだろうか。大変なエピソードを淡々と語られる中に、家族、仲間への強い信頼と期待に応えたいという思いが伝わってきた。

「不可能」というのは、そこでやめてしまうから「不可能」なのであって、見方ややり方を変えたり、環境を工夫したりすることで「可能性」に変えることができるということを、様々なエピソードから伝えていただいた。障害の有無や性別、年齢の差など、一見自立の妨げに思われるような個々の特性も、あきらめるのではなく、よりよい社会を生み出す可能性になる。そう思うと、人と違うと思うことや年老いていくことが怖いことではなくなっていく。今、学校という場所では、友達と違うことが怖い、自分のキャラクターを演じなければならぬという子が少なからず存在する。どんな形にできるかわからないが、新田さんから教えていただいたこのマインドを子どもたちに伝えることが、研修を受けた自分にできる第一歩だと思う。（小学校）



○ゲストの新田佳浩さんは、会員（下松市立末武中学校）中原基一郎先生の同級生（大学）です。招聘にあたっては、中原先生に間に入っていただき、講師紹介もお願いしました。中原先生、ありがとうございました。

鷹岡学部長から、「どうして、新田さんと仲良くなったのか？」という質問を受けました。その質問に対してすぐに答えることができず、また短い時間では思いつくものはありませんでした。質問についての答えを探しながら、その後の講演を聞く中で導き出した答えは、「当時、私も彼も、18歳の男の子であり、自分のこれまで、そしてこれからのスポーツキャリアに対する想いをもっていただけ」でした。決して、「健常者である自分が、障がい者である彼に対して、障がい者を理解しよう」と思ったわけではないということです。

今回の講演の内容も、「障がい者だから...」や「障がい者への理解は...」という内容は、ほとんどなかったのではないかと感じています。もちろん、新田さん自身がフィールドにしている「パラスポーツ界に貢献したい、還元したい」という熱い想いはもっていますが、それは私たちが「目の前の子どもたちのために」という熱い想いと同類のものと考えます。他の参加者の方も、このように感じておられていることを、期待しています。

2023年4月期にTBS系列で放送された「日曜劇場『ラストマン—全盲の捜査官—』」においても、視覚障がい者である主人公の考え方や感じ方が、健常者と同じであることが強調されていたように感じています。

多様な人材（みんなが健常者である、みんなが特性をもっている）が、互いを尊重し、一人の人間同士として関係を構築し、一緒に生活していく社会が実現できるよう、子どもたちや保護者、地域とともに、学校での取組が進んでいくよう、頑張っていきたいと思います。（中原基一郎）

→ 会場に残ってくれた参加者の皆さん（一部）と新田さんで記念撮影！勿論、メダルも一緒です！新田さん、かつこいいです！



## 「巡回型講座」や今回から始めた「託児サービス」についても意見を貰いました！

昨年度は「下松市」と「宇部市（オンライン）」で、本年度は「周南市」で開催しました。地元教育委員会の方々には共催・会場確保・運営協力等で大変お世話になりました。

また、今回から「託児サービス」を始めました。「学び続ける教員」の育成、キャリアの形成支援や子育て支援、働き方改革に資する課題と捉え、県（こども・子育て応援局）と相談しながら実施しました。当日は、佐々廣子先生、周南市の行村弘子さん、幼児教育コース4年の井手元佳奈さん、水村佳奈さんという保健師・看護師・保育士揃いの「贅沢な布陣」(^\_^) 大変お世話になりました。4人の託児者の皆さん、ありがとうございました。



### 受講者のコメントから

山口県について知ること、県内の様々な地域素材について理解を深めることを目的とした地域開催は、とても面白い企画だと思います。自分ではなかなか行こうとしない所に行く機会を貰えることは貴重です。また、今回のように開催市町の教育について、行政の方からお話が聞けるのが有意義です。「うちの市ではどうなってるんだろう？」と、所属市町の教育行政について関心を持つきっかけになります。ぜひ今後も取り入れていただきたいです。（小学校）

フィールドワークを織り交ぜた終日開催で、日頃の研修では学ぶことのできない内容で、地域を知ることのできる機会になりました。公共交通機関移動ができる場所であったため、駅周辺や昼食を含めた散策ができるなど、移動を含めて学ぶ機会の確保につながっていました。県全域を数年単位で周っていくことで、勤務地以外の土地を知るチャンスになると、学部生だけでなく現職教員も学びを深めることができると感じました。（小学校）

託児所開設は、今後の研修体制、キャリアアップの視点から大きな一歩となる体制づくりと感じました。体制を整える、環境を整える、人材を確保する等、様々なハードルを越えて実現できたことが、様々な立場の方のキャリアの支えになると確信しています。実際に利用された先生は、大変にありがたいサポートであったと思いますし、学部生の実地研修の一面も兼ね備えていたので、プラスの面が多々ありました。運営側の負担感は想像しきれませんが、とても感激する体制づくりでした。（小学校）



山口市外の開催は、他の市に目を向けるきっかけにもなり、非常に刺激のある研修でした。また、託児所などの配慮もあり、子育てをされながら研修会に参加されているお母さんの姿を拝見して、私自身も頑張ろうと思いました。大変お世話になりました。（総合支援学校）

教員対象の研修会で「託児サービス」は初耳だったのですが、よく考えると、民間企業の女性社員対象（女性社員に限定することは別の意味で考えものと思うのですが）や、若い世代の参加が多い資格取得の講習会、子育て・教育イベントでは、「普通に託児サービスがあるなあ！」とも思いました。勉強したい、資格を取りたい等の希望や意欲をもつ人たち、成長しようとする人たちを、社会をあげて応援する、みんなで支える空気が広がると良いなあとも思いました。とっても良い取組だと思います。研修会の近くに子どもがいるのも心地よいです。（小学校）